

ビジネスグリッドコンピューティングについて < 事業概要 >

BUSINESS GRID COMPUTING PROJECT

プロジェクトの概要

(1) 目的

- ・ビジネス利用に有効なグリッドコンピューティング技術の開発と標準化

(2) 活動内容

- ・国際競争力を有する技術開発
- ・世界的普及を図るための国際標準化活動
- ・事業化に向け、ユーザと協調した実証実験

(3) 期間・体制

- ・プロジェクトの期間: 2003年度 ~ 2005年度 (3年間)
- ・体制
 - 推進: 経済産業省、(独)情報処理推進機構
 - 開発: コンソーシアム(富士通(株)、(株)日立製作所、日本電気(株))、(独)産業技術総合研究所

優位性

ヘテロジニアス¹な環境でのITリソースのシームレスな統合が可能
業務記述言語、及びサイトにまたがるITリソースと業務配備の技術開発で先行
国際標準化団体 (GGF, OASIS²) への参画による標準化への貢献

実証実験

- ケース1: 災害時での業務継続の実現とTCOの削減【マツダ(株)】**
 - ・平常時はバックアップサーバを有効活用して快適なレスポンスを保証
 - ・災害時は迅速にバックアップシステムを立ち上げ業務継続
- ケース2: 安定した応答時間と業務継続性の実現【(株)日本経済新聞社】**
 - ・突発的なアクセス急増に対してWWWサーバを自動追加
 - ・ニュースサイト障害時、外部データセンタでサービスを継続
- ケース3: ストレージ運用コスト削減、安全なデータ保管【(株)損害保険ジャパン】**
 - ・データの重要度に応じた最適な再配置によりストレージの利用効率向上
 - ・改ざん防止や保管終了後の完全抹消により安全なデータ保管を実現
- ケース4: GridASP(Grid Application Service Provider) 柔軟なグリッドサービスの提供【(独)産業技術総合研究所】**
 - ・バイオや半導体CAD等の分野におけるテクニカルコンピューティング能力をユーティリティサービスとして提供するビジネスモデルGridASPの実現

¹ヘテロジニアス: 異機種が混在したコンピューティング環境。平成16年度現在、運用管理ツールである富士通「SystemWalker」、日立「JP1」、NEC「VALUMO」で管理されているITリソースが対象。
²GGF(Global Grid Forum): グリッドコンピューティングにおける国際標準化団体、OASIS(Organization for the Advancement of Structured information Standard): X.M.I.を基盤にコンピューターシステム同士の情報交換を可能にする技術の国際標準化団体

ビジネスグリッドコンピューティングの狙いと効果

(1) 狙い

ビジネスの現場では、顧客ニーズの多様化、ビジネスサイクルの短縮化、グローバルな競争の激化、データの長期保管を必須とする法規制、等が進展しており、企業が高い競争力を獲得・維持していくためには、ITを最大限に活用し、経営の効率化を進めていくことが不可欠です。

IT投資を最適化し信頼性・安全性の高いビジネスサービスを実現するIT基盤の提供

ビジネスグリッドコンピューティングは、オンライントランザクションなどの多様な業務処理を、性能や信頼性を保証しながら負荷に余裕のある他サーバに引継ぐことにより、基幹システムにおけるIT投資効率の向上を図ります。

ビジネスデータのライフサイクル全体に渡ってセキュアで効率的な管理を実現

ITリソースの一部であるストレージにおけるデータの発生から保管・抹消に至るライフサイクルを一貫して管理できます。データを適切なコストで安全に管理する技術により、ストレージの利用効率向上と管理コスト削減を図ります。

(2) 効果

